

文学部

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念と目的】

奈良女子大学文学部は、人間という存在を深く理解し、社会を総合的に鋭く認識する女性の育成を目指します。幅広く深い教養をもとに、人文社会学科、言語文化学科、人間科学科で展開する諸分野に関する学修を通して、専門的知識や技能を身につけ、主体的に課題を発見、分析、解決する実践力を養います。そして、グローバルな視点から自分の考えを的確に表現、発信できる積極的な人材を育成します。

【身につけるべき力】

- ・豊かな感受性と鋭い洞察力をもち、人間とは何かについて深く考える力
- ・社会における諸事象を俯瞰し、批判的にとらえ、的確に判断する力
- ・歴史・文化・言語・地域についての確かな認識をもとに、自らの考えを発信する力
- ・主体的に課題を発見・分析し、解決に取り組む力

【学位授与の要件】

本学部で定めた在学期間内に上記の目的に沿った授業科目を履修し、所定の単位を修得のうえ、卒業論文を提出して審査に合格した学生を、上記の力を身につけたものと認め、「学士（文学）」の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【文学部のカリキュラム構成】

奈良女子大学文学部では、入学後に学生自らが学科・コースを選択していく制度をとっています。2年次から学科に所属し、3年次にコースを選択します。

文学部の専門科目として「学部共通科目」「学科科目」を開講します。「学部共通科目」（基礎演習、概論等）では、専門分野の基礎的な知識を獲得するとともに、情報リテラシーやコミュニケーション・スキルを養います。2年次以降に履修する「学科科目」（特殊研究、講読、演習、実習等）では、自身の課題を探求するための深い専門性を身につけます。

最終年次に、これらの学びの集大成として卒業論文を作成します。

【文学部の教育内容と方法】

- 異文化に対する理解を深め、国際社会を視野に入れた思考ができるよう、2カ国語以上の外国語を習得します。
- 大学における多様な学問に触れ、幅広い教養を身につけるため、大学の教養教育の理念に基づき、4年の学修期間を通して教養科目を履修します。
- 文学部での学びの導入として、1年次での「基礎演習」や「学ぶことと女性のライフスタイル」の履修を通じて、自ら問題を発見し論理的に思考する力を養います。
- 演習、実習等では、少人数の履修者による主体的・協働的な深い学びをつみ重ねながら、専門的スキルを高めます。
- 幅広い視野を獲得し、学際的な研究テーマに取り組むことを可能にするため、「学科科目」の大部分は、他学科の学生も自由に履修することができます。
- 文学部が取り組む「なら学プロジェクト」「ジェンダー言語文化学プロジェクト」関連科目の履修により、さまざまな学問的アプローチによる最新の研究成果に触れることができます。
- 「卒業論文」は、全学科・全コースで必修です。
- 「卒業論文演習」では、専門的知識に基づいて課題を発見・解決するプロセスを履修者全員で共有し、ひとりひとりが的確な「ことば」で論理的に説明する能力を高めます。
- 6年一貫教育プログラムでは、学部から大学院博士前期課程まで継続的に研究を行うとともに、留学などの学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【文学部の教育理念】

21世紀の日本社会は、複雑で困難な諸課題に直面しています。奈良女子大学文学部では、とくに人間と社会にかかわる諸問題に取り組み、解決に導く能力を身につけるための高度な専門教育を推進しています。豊かな知性と感性を持ち、主体的に学び実践する女性が日本の社会を変えていくことを確信して、文学部では「社会への鋭い認識」「国際的視点に立った思考力」「人間への深い理解」を育むことを教育理念としています。

【文学部の求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、文学部は次のような学生を求めます。

- 正確な知識をもとに、ものごとを論理的に表現する学力を培ってきた人
- 多様な文化、現象に関心を持ち、自分自身で課題を見つけ出そうとする人
- 教師や友人たちとともに学び、相互理解と共感を通じて、人間的な豊かさを求めようとする人

【文学部における入学者選抜の基本方針】

文学部の一般選抜では、高等学校における学習の基本的達成度を問う大学入試センター試験（5 または 6 教科、7 または 8 科目）と、文学部の学問の共通の基盤である「ことば」についての正確な知識及び論理的説明に不可欠な「ことば」の運用能力を問う個別学力検査（国語・外国語の 2 科目）を課しています。「国語」と「外国語」では「ことば」の基礎知識の有無を確認し、記述式の設定によって読解力と文章作成力を判定します。

AO 入試（アドミッション・オフィス入試）は、地域環境学分野、教育学・人間学分野のいずれかを特に学びたいという強い意欲を有する人に対して実施しています。その他の特別入試として、私費外国人留学生入試、第 3 年次編入学試験を実施しています。

文学部 人文社会学科

—学位授与・教育課程編成の方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念と目的】

人文社会学科は、歴史学・地理学・社会学などの人文科学諸分野が有機的に連携し、時間（歴史的）、空間（地域的）、関係（社会的）の3つの観点から履修コースを設定して体系的教育を行います。奈良をはじめ日本や世界の文化と社会の多面的な理解に基づき、批判的な観察と論理的な分析を通じて的確に判断し、表現できる力を身につけ、激しく変化する社会と文化に対して、自ら問いかけ、主体的に解決に取り組む女性の育成を目的とします。

【身につけるべき力】

- ・資料・史料や文献を読み解き、体系的理解に基づいて新たな情報を客観的に分析し、論理的に考えて表現する力
- ・フィールドワークや調査を通して多様な人々と協調・協働し、コミュニケーションできる力
- ・社会の変化に対して自ら課題を見つけ、主体的に判断・行動し、問題解決に取り組む力

【学位授与の要件】

本学部で定めた在学期間内に上記の目的に沿った授業科目を履修し、所定の単位を修得のうえ、卒業論文を提出して審査に合格した学生を、上記の力を身につけたものと認め、「学士（文学）」の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【人文社会学科のカリキュラム構成】

人文社会学科は、社会と文化について広い視野から主体的に考えるために、古代文化学、歴史学、社会情報学、地域環境学、文化メディア学の多様な5コースから成ります。歴史学・地理学・社会学を軸に各コースが連携することで、過去から現在に至る人間の諸活動について体系的に学び、発展的に知識を獲得し、学術的スキルを磨くことができるようにカリキュラム構成が配慮されています。

【人文社会学科の特色ある教育内容と方法】

- ・社会・地域・文化に関する知識を獲得するために、時間（歴史的）、空間（地域的）、関係（社会的）の3つの観点を体系的に学ぶための科目を開講しています。

- 史料から現代メディアに至るまでの多様な研究題材を用いて、歴史学・地理学・社会学に関する専門的・発展的知識を身につけるための科目を開講しています。
- 社会調査やフィールドワークを実践的に学ぶための科目を開講し、情報収集・分析・応用のための方法論を習得します。
- 本学科が推進する「なら学プロジェクト」では、奈良の社会や歴史、文化を現代的視点から読み解くための科目を開講し、地域学・地域研究を実践的に学びます。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。

文学部 言語文化学科

—学位授与・教育課程編成の方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念と目的】

言語文化学科は、言語と文学に関する諸事象・諸問題について、根源的かつ総合的な研究・教育を行うことにより、文化現象全般を視野に入れ、自由な発想と柔軟な思考力を持ち、国際社会で活躍できる人材を育成します。教育の中心に「ことば」を学び、駆使することを置き、これを通して人と文化・社会への深い理解と的確な判断力を育てることを目指します。

【身につけるべき力】

- ・言語文化に対する確かな認識を基に、異文化に属する人々と積極的に交流する力
- ・正確かつ実践的な言語運用能力を基に、社会に自らの考えを発信する力

【学位授与の要件】

本学部で定めた在学期間内に上記の目的に沿った授業科目を履修し、所定の単位を修得のうえ、卒業論文を提出して審査に合格した学生を、上記の力を身につけたものと認め、「学士（文学）」の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【言語文化学科のカリキュラム構成】

本学科は日本、中国を中心に漢字圏の言語文化を学ぶ日本アジア言語文化コースと、英語圏、ドイツ語圏、フランス語圏の言語文化を対象とするヨーロッパ・アメリカ言語文化コースから成ります。いずれかのコースを選択して、それぞれの言語文化を深く理解する履修方法が一般的ですが、他の言語文化との対照や交流史を探る比較文化論的視点から学ぶこともできるようにカリキュラム構成が配慮されています。

【言語文化学科の特色ある教育内容と方法】

- ・外国語については 1・2 年次に習得した語学力を基礎に、より高度で実践的な運用能力を身につけます。ヨーロッパ・アメリカ言語文化コースではそのための科目として「コミュニケーション科目」の履修を必須としています。
- ・日本アジア言語文化コースでは、専門の学修のための基礎学力を身につける科目として「日本ア

シア言語文化学入門」の履修を推奨しています。

- 「ジェンダー言語文化学プロジェクト」関連科目として、学部共通科目「ジェンダー言語文化学概論」「同演習」、学科科目「ジェンダー言語文化学特殊研究」を開講しています。専門の枠を超えて社会・文化・歴史的な性のあり方（ジェンダー）という観点から、言語文化に対する学際的アプローチを学びます。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。

文学部 人間科学科

—学位授与・教育課程編成の方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念と目的】

人間科学科は、社会と文化における人間と人間相互の生の営みに焦点を合わせ、人間の存在と形成について総合的に研究・教育を行うことにより、一人ひとりの人間が充実して生きることのできる社会と文化の創造に貢献できる人材の育成を目的としています。哲学、教育学、心理学、音楽、身体文化学の諸分野の学修を通して、人間とはいかなる存在であるかについて広くかつ深く学びます。

【身につけるべき力】

- ・人間の存在と形成・行動に関する専門的理解に基づいて論理的に思考する力
- ・確かな根拠に基づいて問題を発見し、分析する力
- ・他者と協働して問題解決にあたるコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

本学部で定めた在学期間内に上記の目的に沿った授業科目を履修し、所定の単位を修得のうえ、卒業論文を提出して審査に合格した学生を、上記の力を身につけたものと認め、「学士（文学）」の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【人間科学科のカリキュラム構成】

本学科には、哲学、教育学、音楽、身体文化学の4領域からなる教育学・人間学コースと、基礎から応用まで総合的に心理学を学修する心理学コースの二つの履修コースがあります。いずれかのコースを履修することになりますが、「子ども学」関連の科目が両コースに開設されているように、学生の問題関心に応じてコースの枠を超えた履修を可能にするカリキュラム構成になっています。

【人間科学科の特色ある教育内容と方法】

- ・上記の4領域からなる教育学・人間学コースは、文献研究をはじめ調査や観察など様々な研究方法が用いられていることに特徴があります。そのために、「教育学・人間学実習」や「研究演習」等において各領域の研究方法を学修することが重視されています。
- ・心理学コースは、発達心理学、認知心理学、社会心理学、教育心理学を中心に基礎と応用の両面から

心理学を学修します。そこでは理論と同時に、観察、面接、調査、実験といった研究方法の学修が重視され、「実習」をはじめ、「特殊研究」や「演習」においても研究方法に関する多くの科目が開設されています。また、支援や教育の現場での参観や体験を通じて実践的な能力の習得を目的とした科目も設けられています。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。